

事後評価シート

【評価年月】 平成15年 4 月
 【主管課・室】 環境保全対策課
 【評価責任者】 環境保全対策課長 太田 進

施策名、施策の概要及び予算額

施策名	- 1 - (3) 酸性雨対策
施策の概要	越境大気汚染問題である酸性雨対策を国際的に協調して進めるために、東アジア地域を対象として平成13年1月から本格稼働を開始した「東アジア酸性雨モニタリングネットワーク（以下、本表においてEANETという。）」を推進するとともに、長期モニタリング計画に基づく我が国における酸性雨モニタリング体制の見直しを行う。また、東アジアにおける酸性雨対策の推進に向けた調査研究等の国際協力を進める。
予算額	525,706千円（14年度予算）

目標・指標、及び目標の達成状況

目標	東アジア地域を中心に、国際的な連携の下でのモニタリング、調査研究等の国際協力を進め、酸性雨による環境影響を防止する。
達成状況	酸性雨による環境影響を防止することに寄与するための取組を実施した。 EANETの活動の促進及び基盤強化を進めた。 国内酸性雨モニタリング体制の見直しを行った。 EANETの技術的能力向上のための国際協力を進めた。 東アジアにおける酸性雨対策に向けた調査研究を実施した。

下位目標1	EANETの活動を推進する。				
指標	H12年度	H13年度	H14年度	目標値	H 年度
EANETモニタリング（酸性沈着）地点数（地点）	40地点	43地点	44地点		検討中
達成状況	EANET参加国の1カ国増加、酸性雨モニタリング地点の1地点増加など、EANET体制の基盤及び財政的基盤の強化に貢献した。				

下位目標 2	酸性雨による環境影響を把握するための国内モニタリングによるデータを取得する。				
参考指標	H12年度	H13年度	H14年度	目標値	H15年度
酸性雨国内モニタリング地点数 (地点)	48	48	48		31
達成状況	酸性雨による環境影響を把握するためのデータを取得するとともに、長期的な影響把握のための適切なモニタリング体制に移行するための整備を行った。				

下位目標 3	酸性雨に関する国際協力を推進する。				
指標	H12年度	H13年度	H14年度	目標値	- 年度
EANET分析精度管理目標達成率 (%)	92.3	93.5	-		100
達成状況	EANET参加国における酸性雨モニタリングの技術的能力向上のための国際協力を進めた。 東アジア地域における酸性雨対策に向けた調査研究等を実施した。				

評価、及び今後の課題

評価	<p>【必要性】(公益性、官民の役割分担等)</p> <p>近年の東アジア地域は急速な工業化・都市化が進み、我が国における酸性雨の環境影響が深刻化することが懸念され、国際的連携の下での継続的な酸性雨モニタリングの実施とともに、国際協力の強化、酸性雨の発生源に関する対策等が必要である。</p> <p>【効率性】(効果とコストとの関係に関する分析等)</p> <p>コスト面を含めより効果的なモニタリングの実施に向け、国内モニタリングに関して、モニタリング地点の見直し(48地点から31地点への絞込み)を行ったところであり、EANETの推進についてもより精度の高い有効なデータの取得ができた。</p> <p>【有効性】 (達成された効果等)</p>
----	---

	<p>目標に対する総合的な評価</p> <p>酸性雨による環境影響を防止することに寄与するための取組については、EANETの活動の推進等の各種施策が着実に進められている。</p> <p>下位目標毎の評価</p> <p>【下位目標 1】</p> <p>EANET参加国の1カ国増加及びモニタリング地点の1地点増加により、EANETモニタリング体制の拡充・強化がなされた。</p> <p>【下位目標 2】</p> <p>国内モニタリング地点の見直し等の検討の結果、長期モニタリングとして適切とされた31地点からなる新たなモニタリング体制に移行するための整備がなされた。</p> <p>国内モニタリングによるデータの着実な取得がなされ、酸性雨の実態解明が着実に進められた。</p> <p>【下位目標 3】</p> <p>EANET参加国における酸性雨モニタリングの技術的能力の向上がなされた。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>今後もEANET参加国の増加が見込まれることから、EANETを円滑に推進するため、東アジア諸国のモニタリング能力向上のための国際協力の継続が必要である。</p> <p>現在、EANETの運営経費の大部分を日本が拠出している状態であり、今後、EANET運営に係る財政負担の適切なあり方についてオーナーシップの重要性の観点等を踏まえ、参加各国との合意形成を図り、EANETの財政面に関する基盤の強化が必要である。</p> <p>EANETの活動を推進することにより、国際協調に基づく酸性雨対策（特に発生源対策に結びつく施策）の枠組みづくりを目指すことが必要である。</p> <p>これまでの国内酸性雨モニタリングの結果（過去20年間）に基づく総括的な分析等が必要である。</p> <p>中国等で被害が激甚化している黄砂は、近年、過放牧や耕地の拡大等の人為的影響によるとの指摘がされているが、その発生・移動経路や人体への影響等は必ずしも解明されていないことから、我が国への黄砂の飛来実態等を把握し、対策を進める上での情報を収集する必要がある、モデリング技術の向上や、発生源地域の状況の把握が課題である。</p>

政策への反映の方向性

<p>事業の改善・見直し</p>	<p>理由の説明（新規、<u>拡充</u>、縮小、廃止等）</p> <p>我が国を含む東アジア地域における酸性雨対策の推進に寄与していること、また、これらの地域における国際協力を推進できたことから、今後とも、継続していくことが適当であるが、次のフ</p>
------------------	---

	<p>エーズとして、酸性雨の原因物質の排出抑制につながる施策を併せて行うことが重要である。酸性雨の原因物質は、主として化石燃料の燃焼に伴って発生することから、当該施策については地球温暖化対策と密接不可分な施策としても位置付けられる。</p> <p>また、黄砂については、国内外において適切なモニタリング・ネットワークの形成を推進するとともに、予報・予測や効果的な発生源対策検討のための「黄砂モデルの開発」や「発生源対策に資する生態系診断」の実施が必要である。</p>
<p>現行のまま継続</p>	<p><u>理由の説明</u></p>

【別紙】

事務事業シート

施策名	- 1 - (3) 酸性雨対策	
事務事業名 (関連下位目標番号)	事業の概要	主な関連予算事項等 (14年度予算)
ア．東アジア酸性雨モニタリングネットワーク(EANET)の構築、拡充・強化 (下位目標1)	平成13年1月から本格稼働を開始しているEANETを財政的に支援するため、その事務局及び技術センターの運営に必要な経費を任意拠出の形でEANET事務局の信託基金に拠出した。	東アジア酸性雨モニタリングネットワーク拠出金 (165百万円)
イ．国内における酸性雨モニタリングの適切な実施 (下位目標2)	EANETの活動とも連携しつつ、広域的かつ長期的な酸性雨モニタリングを継続的に実施していくために策定した「酸性雨長期モニタリング計画」に基づき、酸性沈着等の各モニタリング調査を実施した。	国内酸性雨モニタリング推進費 (277百万円)
ウ．酸性雨問題の防止に向けた国際協力の推進 (下位目標3)	EANET推進のための途上国支援 東アジア諸国に対し、酸性雨のモニタリング戦略・計画策定、技術指導、研修活動等の支援事業を実施し、関係諸国・機関との協力の下にネットワーク活動の円滑な推進を側面から支援した。 酸性雨調査研究 将来の国際協調に基づく酸性雨対策の推進のための科学的基盤を固めるため、東アジア地域を対象として酸性雨についての生態影響評価手法に関する調査及び酸性雨原因物質の移動・拡散・反応・沈着のシミュレーション	酸性雨対策国際協力事業費 (40百万円) 酸性雨調査研究費 (48百万円)

ンモデルの改良やモデル検証の
ための現地調査を実施した。

【別紙】 政策効果把握の手法及び関連指標

(施策名) - 1 - (3) 酸性雨対策 (下位目標番号) 1	単位	現況値(時点)	目標値(目標年次)		
(指標名) EANETモニタリング(酸性沈着)地点数	地点	44地点 (H14年度)	検討中 (平成 年度)		
指標の解説(指標の算定方法) EANET活動に係る酸性雨モニタリング地点数					
評価に用いた資料(インターネットの公開・非公開の別) 東アジア地域における酸性沈着データ報告書	関連する事務事業名 EANETの構築、拡充・強化				
目標値設定の根拠 東アジアの酸性雨の状況を把握するのに十分なモニタリング地点数を整備する。					
特記事項 (外部要因の影響など) 現状では、状況把握のために必要十分な地点数は必ずしも明確ではなく、目標値の設定は困難である。					
目標値の実績値 (表・グラフにより、過去5年間の目標値の推移を記載)					
指標	H10	H11	H12	H13	H14
EANETモニタリング地点数	14	38	40	43	44

【別紙】 政策効果把握の手法及び関連指標

(施策名) - 1 - (3) 酸性雨対策 (下位目標番号) 2	単位	現況値(時点)	目標値(目標年次)		
(参考指標名) 酸性雨国内モニタリング地点数	地点	48地点 (平成14年度)	31地点 (平成15年度)		
参考指標の解説(指標の算定方法) 酸性雨国内モニタリング地点数					
評価に用いた資料(インターネットの公開・非公開の別) 第4次酸性雨対策調査取りまとめ	関連する事務事業名 国内における酸性雨モニタリングの適切な実施				
目標値設定の根拠 国内の酸性雨の状況を把握するために適切な測定所地点数で継続的なモニタリングを実施する。					
特記事項 (外部要因の影響など) 国内における酸性雨モニタリングを長期継続的に実施することが目的である。					
目標値の実績値 (表・グラフにより、過去5年間の目標値の推移を記載)					
	H10	H11	H12	H13	H14
国内酸性沈着モニタリング地点数	43	46	48	48	48

【別紙】 政策効果把握の手法及び関連指標

(施策名) - 1 - (3) 酸性雨対策 (下位目標番号) 3	単位	現況値(時点)	目標値(目標年次)		
(指標名) EANET分析精度管理目標達成率	%	- (H14年度)	100 (平成-年度)		
指標の解説(指標の算定方法) EANET分析機関間調査(湿性沈着、高濃度試料)の精度管理目標内データ達成率					
評価に用いた資料(インターネットの公開・非公開の別) EANET分析機関間調査(湿性沈着)報告書	関連する事務事業名 酸性雨問題の防止に向けた国際協力の推進				
目標値設定の根拠 EANET活動に参加する全ての分析機関において全項目の精度管理目標を達成する。					
特記事項 (外部要因の影響など) 今後も新規参加等が見込まれるため、達成年度を設定するのは適切でない。					
目標値の実績値 (表・グラフにより、過去5年間の目標値の推移を記載)					
	H10	H11	H12	H13	H14
指標 EANET分析精度管理目標達成率	78.3	92.4	92.3	93.5	-